

地域理学療法実習の開講時期の検討と実習での学びに関する考察

釧明佳代子¹⁾ 阿部玄治¹⁾ 高橋一揮¹⁾

1) 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

要旨

東北文化学園大学理学療法学専攻では、3年次生を対象に2023年3月に5日間の「地域理学療法実習」を開講した。本稿では、初めて開講した地域実習の内容を紹介するとともに地域理学療法実習の開講時期の適正性と学びとなったことについてアンケート調査を実施したので報告する。アンケートの結果から、開講時期においては、大多数の学生が肯定的に捉えていた。学びとなったことに関しては、地域での理学療法士の役割が明確になったとの回答が最も多く得られた。このことから、「地域理学療法実習」を3年時の春季休業中に開講することは、それまでの学習や臨床実習の経験をふまえると適切であると考えられる。一方で、学生の4年次に向けた準備や在学中の長期休みを利用した課外活動などを考慮すると、引き続き慎重な検討が必要と考えられる。

【キーワード】 地域理学療法実習、学び、開講時期

I. はじめに

臨床実習は、養成施設で習得した知識や技能を手掛かりに「養成施設では経験できない実践環境で、より一層の理解を深めるための教育機会」¹⁾である。本学医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻では2019年度入学生まで2年次に2週間の見学体験実習を、3年次に6週間の評価実習を、4年次に10週間の総合臨床実習を実施してきた。

近年、高齢化の進展に伴う医療需要の増大や、地域包括ケアシステムの構築等により、理学療法士及び作業療法士に求められる役割や知識等が大きく変化してきた背景を受けて、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則が改正され、2020年4月以降の入学生は通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習（以下、地域理学療法実習）を1単位（40時間）以上行うこととなった²⁾。この改正を受

け、本学においても3年次生を対象に2023年3月に5日間の地域理学療法実習を実施することとした（図1）。

地域理学療法実習の目的は、生活期の理学療法の実践を理学療法士の業務および他の専門職の業務を見学・体験を通して学ぶことである。また、通所リハビリテーションの事業所での実習を通して、病院、診療所、居宅介護支援事業所、介護保険施設・事業所、保健福祉センター等の関連専門職、加えて地域住民と協働・連携することで地域包括システムの中での理学療法士の役割を理解することである。一方でその開講時期においては各養成校に委ねられている。本学では一通りの理学療法専門分野が修了する3年次春季休業期間に実施したが、学習効果やレディネス、early exposéへの期待などを鑑みると、より適切な開講時期等において検討が必要であると考えられる。

そこで本稿では本専攻の今年度より新たに開始した地域理学療法実習の内容を紹介するとともに、実習終了後に学生から聴取したアンケート結果から、開講時期の適切性および学びとなったことを考察する。

II. 地域理学療法実習の実習内容・課題および目標

本学の地域理学療法実習は3年次生61名を対象に2023年3月6日～10日に30名が、3月13日～17日に31名が宮城県を中心に延べ21施設で実習した。

実習内容は事業所内の理学療法士の一連の業務を見学し、指導者の指導のもと一部を体験することである。また、事業所内での利用者の一日の流れを見学し、送迎、排泄介助、入浴介助、並びに食事介助などを指導者のもとで体験することとしている³⁾。

学生の課題として実習中には、見学・体験した内容から実習記録を作成する。実習後は、「利用者が受けるサービス内容と理学療法士の役割と介入」および「通所リハビリテーション事業所内及び外の連携」について報告書をA4版1枚にまとめ提出する。この報告書を元に報告会を実施し、教員の合議により評点をつける。出席状況と提出課題・実習報告会により単位認定の対象となる。

実習目標として以下5つを掲げている。1) 利用者が受けるサービスの内容、主に理学療法士の業務・役割を理解する、2) 個別・集団リハビリテーションの見学・体験のもと、「活動と参加」に焦点をあてた目標・プログラム・介入を理解する、3) 理学療法士がADLあるいはIADL等の介入をすること、家族や他のサービス事業所の専門職・介護支援専門員等に介護方法や環境調整等を助言・指導することを理解する、4) リハビリテーション会議・サービス担当者会議に参加することで、利用者の生活について本人・家族及び専門職で検討され、課題の抽出、方針を決め、計画を立て、利用者に同意を得て、サービスが実施されることを理解する、5) 事業所外の連携の方法を指導者から説明を受けて理解する。

III. アンケート調査

1. 対象

2023年3月に地域理学療法実習を終えた理学療法学専攻3年次生61名を対象とした。アンケート実施にあたり事前に口頭にて目的や実施方法を説明し、自由意思に基づき回答を得た。

なお、本アンケート調査にかかる説明および実施は、対象科目の時間外に開催された学年ホームルームで行った。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----|----|----|------------------|----|----|----|-----|---------------|-----|----|---------------------|-----------------------|
| 2年次 | | | | | | | | | | | 見学体験 実習 (2週間) | |
| 3年次 | | | | | | | | 評価実習 (6週間) | | | | 地域理学 療法実習 (1週間) |
| 4年次 | | | 総合臨床実習 (10週間) | | | | | | | | | |

図1 本学理学療法学専攻の臨床実習体系

2. アンケートの実施方法ならびに内容

Googleform を用いてアンケートを実施した。開講時期に関するアンケートとして、「地域理学療法実習の開講時期は3年次3月開講で適切でしたか」について「適切」「やや適切」「どちらでもない」「やや適切でない」「適切でない」の5件法で問い、理由を自由記載で回答させた。また、実習での学びに関するアンケートとして、「地域理学療法実習で一番学びとなったことはどんなことですか」に対する回答を自由記載で得た。自由記載の内容は精査し、類似性のある意見でまとめた。なお自由記載の取りまとめは、一人の著者が実施した。取りまとめた著者は大学で9年の教育歴があり、また臨床で17年の経験をもつ。

IV. アンケート結果

アンケートは対象学生61名全員より回答を得た（有効回答率100%）。

開講時期は適切であったかの問いには、「適切であった」・「やや適切であった」が80%弱を占めた（表1）。その理由として、学習の積み重ねができていた、時間的余裕があった、医療施設との違いが認識できたなど、3年次後期までの学習や臨床実習の経験を活かしたことによる回答が多く、学生から挙げられ、学生1人当たり40文字程度の記載量であった（表2）。一方で「やや適切でない」と回答した学生も10%弱みられた。その理由として、低学年でも実習目的が達成できる、時間的余裕がないという意見が挙げられ、40文字程度の記載量であった（表3）。

地域理学療法実習で一番学びとなったことへの回答では、地域での理学療法士の役割の明確さに関する内容が最も多く、利用者とのかわり、環境把握や調整の重要性、他職種連携の重要性についても挙げられ、記載文字数は20～70文字程度で記載した学生が多かった（表4）。

表1 地域実習の開講時期は適切であったか

| 地域実習の開講時期 | 人数 (n=61) | % |
|-----------|-----------|------|
| 適切 | 27 | 44.3 |
| やや適切 | 21 | 34.4 |
| どちらでもない | 8 | 13.1 |
| やや適切でない | 5 | 8.2 |
| 適切でない | 0 | 0.0 |

表2 開講時期に対する肯定的意見のタイトルと代表意見（意見数）

- ・学習の積み重ね (24)
地域理学療法を履修し、介護保険分野の学習が終わってからが良い
各自で理解を深めてから実習に行くことができる
1,2年生よりも理解ができる
- ・時間的余裕 (19)
春休み期間中であり、テストも終了しているため余裕がある
テストも終わり、知識があった状態で臨むことができた
不都合を感じなかった
- ・医療施設との違いを認識できる (7)
評価実習を実施した後で、病院との違いが明確になる
病院実習を終えた後で視野が広がる
対象者との接し方・検査方法などがある程度わかってからが良い

表3 開講時期に対する否定的意見のタイトルと代表意見（意見数）

- ・低学年での実習でも目的が達成できる (6)
地域での理学療法士の役割を理解することは1年生でもできる
1週間の実習と短期であるため1・2年生でも良い
地域理学療法実習の体験を生かして授業に臨めばよい
先に地域理学療法実習を行い、評価実習の準備ができる
- ・時間的余裕がない (5)
卒業研究や就職活動なども考えると忙しい
春休みがなくなり、帰省などが難しい

表 4 学びとなったことの代表意見
(意見数)

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域での理学療法士の役割が明確になった (25) 病院と地域での役割の違いが学べた 機能改善だけでなく生活に目を向けていること リハ会議に参加して地域に根付いた理学療法の重要性を学んだ |
| <ul style="list-style-type: none"> ・利用者とのかかわり (13) 利用者との信頼関係が大切だと思った コミュニケーションの取り方を学んだ 同時に複数の方をみるリスク管理の難しさ 利用者同士で励ましあう姿を見て、 地域は利用者とともに成されていると感じた |
| <ul style="list-style-type: none"> ・環境把握・調整の重要性 (12) 送迎を見学して自宅周辺環境や自宅内の環境を 把握することの重要性を学んだ 生活背景について考えようと思うようになった |
| <ul style="list-style-type: none"> ・他職種連携 (7) 他職種と連携しながら利用者とかかわりを持つことの重要性 病院以上に他職種連携が重要だと感じた |
| <ul style="list-style-type: none"> ・その他 (4) 介護保険制度について学べた 介護予防においてどのような運動が必要なのか理解できた 実際の入浴介助を見学してイメージができた 食事場面を見学し、誤嚥予防や食事姿勢の重要性を認識した |

V. 考察

本稿では 2023 年度より開始した「地域理学療法実習」について、内容を紹介するとともに、実習生からのアンケートから実習開講時期の検討および実習での学びについて把握することを目的とした。

本実習は、専門科目の履修を大凡修了した時期に開講するという理由から 3 年次後期に開講した。実習後の実習生からのアンケート結果より、2023 年 3 月とした地域理学療法実習の開講時期においては、大多数の学生が肯定的に捉えていることが明らかとなった。その理由として、1 年次からの学習の積み重ねがあることが挙げられた。特に 3 年次開講科目である地域理学療法学演習 I と II を受講し、介護保険分野についての知識を有して地域理学療法実習に臨め

たことは、実習現場の理解として有用であると考えられる。また 2 年次後期および 3 年次後期に実施する臨床実習 I・II を修了していることで、医療施設の役割をある程度理解できていることが介護施設の理解につながったと考えられる。

一方で、少数ではあったが今回の実習開講時期に対して否定的な回答があり、低学年での開講でも目的が達成できるのではないかという意見が得られた。本専攻では 1 年次に病院見学、2 年次には 2 週間の見学体験実習を実施しており、いずれもその目的は理学療法士の役割理解である。地域理学療法実習も 5 日間の見学を中心とした実習であるため、理学療法士が働く場をを観察することで役割の理解、他職種連携などある程度の概念的理解は可能であるという意見につながったと考えられた。また、地域理学療法実習では検査・治療といった患者介入ではないため技術の未熟さが対象者や施設側へ不利益を与えることがないこと、低学年から介護保険分野の見学をすることで、その後の専門分野の学びを豊かにする可能性があることも要因と考えた。しかしながら、浅利⁴⁾は地域リハは理学療法の応用実践領域であり、基本的理学療法を学ぶ養成課程ではまず基礎的な技術や知識を身につけることを優先すべきという意識がある、と述べている。このことをふまえると概念的な理解にとどまらず、見学を通して理学療法士の視点や生活環境への配慮など多角的な視点を有するには医療施設での実習経験も対比として重要だと考えられ、地域理学療法実習の時期は早くとも評価実習後が望ましいと考えられる。

また、実習の開講時期に対する肯定的意見・否定的意見ともに得られた回答として「時間的余裕」が挙げられた。肯定的意見として今回の開講時期が定期試験終了後の春季休業期間であったため、事前の準備時間を含めて時間的余裕があったと回答した学生が多かった。一方で否定的意見として、実習終了後の報告会も含める

と約2週間を要するため帰省に十分な時間を設けることが難しいとの回答が得られた。例年、3年次の春季休業期間中に学生は多くの準備をすることとなる。就職活動が開始になる学生もいれば、卒業研究のプレ実験、国家試験対策、また10週間の総合臨床実習への準備など学生にとっては多忙な時期ともいえる。このような背景を考慮した学生とそうでない学生間で意見が相違したと推察した。

地域理学療法実習で学びとなったことに関しては、地域での理学療法士の役割が明確になった、多職種連携の重要性などの回答が多く得られた。病院と比較して、という意見もあり、医療施設との対比が学びへとつながっていると考えられた。また、環境把握・調整の重要性や食事や入浴など実際の生活場面を見学・体験したことで学びを深めた様子が伺えた。医療施設以上に生活場面に密接に関わる地域での実習経験は利用者の生活背景にも視野を広げる機会になったと考えられる。

本学の2021・2022年度の就職状況は、内定先として98.0%の学生が医療機関、2.0%の学生が介護福祉施設と大多数の学生が医療機関に就職した⁵⁾。新卒理学療法士の就職先に関する複数の先行報告によると、おおむね85-90%の学生が医療機関に就職したとしており⁶⁻⁸⁾、本学卒業生の医療機関に就職する割合は、他養成施設の卒業生よりも幾らか高くなっている。これは、2021・2022年度卒業の学生には臨床実習期間に介護福祉施設などでの実習経験が全くない学生もおり、介護福祉施設での仕事像が描けなかったことも影響したと推察される。地域理学療法実習で介護福祉施設等の実習を経験した学生の就職先選択についても、今後は注視していく必要がある。

3年次の春季休業期間中に実施した「地域理学療法実習」はそれまでの学習や臨床実習の経験をふまえると開講時期として適切であると考えられる。一方で、学生の4年次に向けた準備

や在学中の長期休みを利用した課外活動への十分な時間の確保などを考慮すると、地域理学療法実習の開講時期には引き続き慎重な検討が必要と思われる。今後も実習後アンケートを継続し、実習の開講時期に関して各学年での学修状況や学生の意向を把握し検討していきたい。

VI. 文献

- 1) 廣慈恵一. 臨床実習の手引き. 第6版. 東京: 公益社団法人日本理学療法士協会; 2019. p7.
- 2) 厚生労働省: 理学療法士・作業療法士学校養成施設カリキュラム等改正概要. <https://www.mhlw.go.jp/content/10803000/000491337.pdf>(閲覧日2023年11月17日)
- 3) 東北文化学園大学医療福祉学部リハビリテーション学科理学療法学専攻: 臨床実習の手引き(2022年度改定); p15-16.
- 4) 浅利和人: 地域リハビリテーション施設における臨床実習教育の在り方に関する研究. 理学療法学 2009; 24(6): 895-899.
- 5) 長井真弓, 釧明佳代子, 桂理江子・他: 理学療法士養成校の就職活動状況および就職先選択条件. 理学療法学 2021; 36(1): 59-65.
- 6) 萩原利昌, 吉村茂和, 三和真人・他: 理学療法士養成学校・養成施設(平成7年度)の求人・就職状況. 理学療法学, 1997; 24: 85-90.
- 7) 細井俊希, 加藤剛平, 福田敏幸・他: 埼玉医科大学短期大学における理学療法士求人状況と就職状況—10年前との比較—. 埼玉医科大学短期大学紀要, 2010; 79-84.
- 8) 韓憲受, 久保晃, 丸山仁司: 理学療法学科新規卒業生の20年間における就職地域と就職先調査—国際医療福祉大学大田原キャンパスの検討—. 理学療法とちぎ, 2019; 9: 13-17.

Considerations regarding the timing and learning of “Community Physical Therapy Practice”

Kayoko Kenmyo, Genji Abe, Kazuki Takahashi¹⁾

1) Faculty of Medical Science and Welfare, Tohoku Bunka Gakuen University

Abstract

The Department of Physical Therapy at Tohoku Bunka Gakuen University organized, a five-day “Community Physical Therapy Practice” in March 2023 for third-year students. This paper reports the course details and discusses the appropriateness of the timing based on responses to a questionnaire. Most students had a positive view of the timing of the course as it provided insights into the role of physical therapists in daycare or homecare rehabilitation. March was considered an appropriate month to start “Community Physical Therapy Practice.” However, careful consideration will be necessary in timing the course, as students are required to prepare for their fourth year.

【Key words】 Community physical therapy practice, timing, learning